

化石研 ニュース

No.131 2018/03/23

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

第36回化石研究会 総会・学術大会 (於 栃木県那須烏山市 / 協力 栃木県立博物館) プログラム

第36回化石研究会総会・学術大会（通算149回）を、下記の日程で開催いたします。
今回は、日本ジオパーク加入に向けて様々な活動をしている栃木県那須烏山市で開催されます。会員の皆様の参加をお待ちしています。ふるってご参加ください。

- 日時：2018年6月2日（土）13時～3日（日）午後
- 会場：烏山公民館（栃木県那須烏山市中央2-13-8）
※ JR 烏山線・烏山駅から徒歩で約10分
- 参加費：無料
- 日程：

< 一日目 6月2日（土）13:00～17:00 >

シンポジウム「北関東の大地と化石」

（一般公開で開催します）

開催趣旨

栃木、茨城、群馬の北関東3県に点在する中新世の地層からは、貝やクジラの仲間をはじめとするさまざまな化石が見つかっています。近年、これらの地層ができた時代や当時の環境が詳しく調べられ、大地の生い立ちや発見される化石には共通点が多く、日本列島の誕生を知るうえでも重要な地域であることが判ってきました。今回の開催地である那須烏山市には、北関東屈指の良好な中新世の地層が広がり、これらの地学的な資源を活用したジオパークの構想も進められています。そこで今回は、北関東の大地の生い立ちと化石について討論するとともに、那須烏山ジオパーク構想について紹介します。

プログラムは次ページです

<シンポジウム「北関東の大地と化石」プログラム>

- 13:00~13:05 来賓挨拶
13:05~13:10 会長挨拶
13:10~13:20 趣旨説明（河野重範：栃木県立博物館）
- 13:20~14:05 基調講演「日本列島の形成史における北関東地域の重要性」
（酒井豊三郎：宇都宮大学名誉教授）
- 14:05~14:50 講演1「大陸から列島へー日本海の拡大を記録する関東地方の地質」
（高橋雅紀：産業技術総合研究所）
- 14:50~15:10 講演2「北関東の中新世貝化石」
（栗原行人：三重大学）
- 15:10~15:20 <休憩>
- 15:20~15:40 講演3「北関東の海を泳いだイルカとクジラたち」
（村上瑞季：秀明大学）
- 15:40~16:00 講演4「那須烏山地域の地形の特徴」
（青島睦治：栃木県立博物館名誉学芸員）
- 16:00~16:20 講演5「地域の資源『ジオ・エコ・ヒト』に着目した
学校教育現場での取り組み」
（星 康彦：那須烏山市立南那須中学校
・同市ジオパーク推進協議会学校教育部会）
- 16:20~16:40 講演6「北関東の生い立ちを学べる那須烏山地域の魅力
～ジオパーク実現に向けての課題と展望～」
（河野重範：栃木県立博物館）
- 16:40~17:00 総合討論

《懇親会》

6月2日 19:00~21:00

会場・・・烏山城カントリークラブ・クラブハウス内「臥竜閣」

※ 会場まではバスで移動

会費・・・6000円程度（飲み放題）

事前申し込みが必要（詳細については4ページをご覧ください）。

< 二日目 6月3日 (日) 10:00~15:00 (予定) >

- ・ **一般講演 (口頭発表／一般公開)**・・・午前・午後
事前申込みが必要です (本ページ下半部～次ページをご覧ください)。
- ・ **一般講演 (ポスター発表／一般公開)**・・・午後
事前申込みが必要です (本ページ下半部～次ページをご覧ください)。
- ・ **総会 (会員のみ)**・・・11:15~12:00 (予定)

※ 講演終了後、バスにてジオサイトの一つ「龍門の滝」を經由 (見学) 後、JR 烏山線の滝駅にて解散予定

一般講演 (口頭・ポスター) の募集

第36回総会・学術大会の二日目 (6/3) に実施する一般講演 (口頭・ポスター) を募集いたします。以下の要領でお申し込みください。また、その他に発表等の展示物などの希望をお持ちの方がおられましたら、事務局までご相談ください。講演予定者で、当会からの派遣申請が必要の場合は、申込の際にその旨をご連絡ください。

講演申込 (講演要旨送付) : 5月1日 (火) 締切

申込方法 : 電子メール (次ページ) もしくは FAX (0274-60-1250/化石研究会 高桑宛)

1. 講演者名、2. 所属・連絡先、3. 演題名、4. 口頭・ポスターの区分

を明記のうえ、5. 講演要旨と共にお送りください。口頭発表で Mac を使用する際にはその旨も明記してください。メール・FAX とともに使用できない場合は、郵便にて上記内容を事務局 (次ページ参照) までご連絡ください。

講演要旨の書式 : 一般講演の要旨は A4 サイズ (縦) 1 枚に演題 14 ポイント、発表者名 11 ポイント、本文 10.5 ポイントとし、本文 1300 文字程度として作成してください。※要旨集編集時にフォント、レイアウト等調整することがあります。

一般講演について :

- ① 一般講演 (口頭) は、講演 15 分、質問 5 分を予定していますが、講演の申込み状況により若干の変更を生じる可能性があります。
- ② 一般講演 (口頭) 用のパソコンですが、Windows のものを 1 台用意する予定です。Mac の方はご自身のパソコンと変換コネクタをご持参ください。発表用ファイルは USB メモリで渡せるようお願いいたします。
- ③ 一般講演 (ポスター) は、幅 180cm×縦 120cm (高さは支持脚 30cm と併せて 212cm) の有孔ボードに貼り付けていただく予定です (A0 サイズでも掲示可)。
掲示用器具を準備します。

一般講演（口頭・ポスター）申込（講演要旨送付）先

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付
化石研究会事務局 宛
メールアドレス：BXJ04105@nifty.ne.jp

※ 一般講演の演題・演者については、次号の化石ニュースや当会ウェブページでお知らせします。

懇親会（6/2）・宿泊ホテルの申込みについて

どちらも事前申込みです（締切 5/25）！！

① 懇親会（烏山城カントリークラブ・クラブハウス）

参加費 ￥6000程度（飲み放題）

【日時：6/2・19～21時・会場：クラブハウス内「臥竜閣」】

② 宿泊（烏山城カントリークラブホテル／シングル）

A. ￥7130（宿泊のみ）もしくは B. ￥8030（宿泊・朝食付）

6/2夕方と6/3朝には、会場まで送迎バスが出ます。

お申し込みは、電子メールもしくはFAXで石田吉明会員まで。

石田吉明 会員 メールアドレス：y-ishida@msi.biglobe.ne.jp
FAX：03-6915-1211（まちがい電話にご注意ください）

締切厳守でお願いいたします。

運営委員会の開催について

役員の方はご出席ください。

日時：6月2日（土）11:00～12:30

※ 会場等詳細につきましては、別途メール等で連絡いたします。

那須烏山市へのアクセス

<会場への公共交通機関・その他の宿泊先>

●那須烏山市への交通手段（JR 宇都宮駅から）：

- ① 鉄道（JR 宇都宮駅から JR 烏山線・ただし JR 烏山線は SUICA 利用できません）
10:05 宇都宮駅 －（JR 烏山線）－ 10:57 烏山駅 －（徒歩）－ 会場
12:11 宇都宮駅 －（JR 烏山線）－ 13:01 烏山駅 －（徒歩）－ 会場
- ② 自家用車・・・以下の各 IC からいずれも約 50 分
宇都宮 IC・矢板 IC（東北道）、上三川 IC（北関東道）、那珂 IC（常磐道）

その他の宿泊施設・6/3の昼食

<その他の宿泊施設>

会場で取りまとめる烏山城カントリークラブホテル（4 ページ参照）を除いた、那須烏山市内の宿泊施設については、那須烏山市 Webpage の「宿泊施設一覧（下記アドレス）」をご覧ください。

<https://www.city.nasukarasuyama.lg.jp/index.cfm/9,89,43,html>

<6/3の昼食について>

会場の近所にコンビニ、また烏山駅そばには食堂などがあります。

つくばで開催された 「The 14th International Symposium on Biomineralization」

第 14 回目となる標記の国際研究集会が、2017 年 10 月 9 日から 13 日まで、茨城県つくば市のつくば国際会議場で開かれた。この国際学会は 1970 年にドイツのマインツで第 1 回が開催されて以来、ほぼ 3-5 年おきに現在まで引き続き開かれて来た。日本では 1977 年に第 3 回を三重県賢島で開いたのが最初で、その後、第 6 回が小田原、第 8 回が新潟（胎内）で開催されるなど、今回のつくばでの第 14 回を含めて 4 回も開かれたことになる。

第 3 回の賢島シンポジウムは、大森昌衛先生が代表をされ、化石研究会の会員が中心となって準備と運営を進めた。私も「博士浪人」だったが、準備のお手伝いをしながら、自分の発表の用意もしたが、当時は日本で国際学会を開くのは大変なことで、下手なと言う

より、ほとんど出来ない英会話力のもと、大変苦勞をしたが、大森先生を先頭とする「大奮戦」で、内外の参加者から非常に高い評価を受けることが出来た。これを契機に日本と諸外国の間の Biomineralization 研究の交流が一気に進むことになった。第 6 回(小田原、1990 年)は、日本歯科大学の須賀昭一教授が主宰され、歯学分野の研究者も多数参加し、一層広い境界領域の研究交流が実現した。

第 7 回が 1993 年にモナコであってから、しばらく間が空いたが、2001 年に新潟県胎内村(当時)で、日本で 3 回目となる第 8 回シンポジウムが開催された。この時の代表は小林巖雄会員(新潟大、当時)がつとめられ、新潟大や日本歯科大新潟歯学部などの化石研会員が準備・運営に協力して実施された。学会のバンケット後には、地元の皆さんも交えて「盆踊り」大会をやり、外国からの参加者が大いに楽しんでいた様子を覚えている。

以上のような経緯を経て、今回のつくばシンポジウム(第 14 回)が開催された。今回の代表は東京大学大学院農学生命科学研究科教授だった長澤寛道氏(現名誉教授)で、海生生物の石灰化の研究をしておられる。南米チリのプーコンで開かれた第 9 回シンポジウムでもご一緒したことがある。今回の参加者は合わせて 211 名と今までで最多であった。そのうち、日本国内からの参加者は 120 名、他の国・地域からが 91 名である。日本で開催される国際学会と言うと、国内からの参加者が相当な割合を占めることが多いが、今回は外国からの参加者が 43%と、かなり高い割合となった。国別で見ると、ドイツの 27 名が最多で、次いで中国 14 名、アメリカ 9 名、フランス 8 名、イスラエル 6 名と続く。地域別では、日本以外のアジア・オセアニアで 29 名、南北アメリカから 14 名、ヨーロッパが 48 名であり、参加国・地域は 18 に上った。

発表された論文は当初のプログラム掲載分で、口頭発表 108 件、ポスター発表 162 件の合計 370 件に達した。参加者数、発表件数とも今まで日本で開催された中で、ずば抜けて多い数で、まさに分きざみの進行で、参加者一同、皆、毎日疲れると言っていたが、それでも時間が足りず、ポスターの説明は夕食後から夜 9 時ごろまでやっていた。

学会 3 日目の 11 日には、無脊椎動物の硬組織の石灰化の世界的大御所である、渡部啓光先生が会場に姿を現された。渡部先生は東北大学岩鉱教室のご出身であるが、日本で真



渡部先生(右)と三島会長(左)、寛会員(中)
(学会会場で)

珠の形成メカニズムの研究を始め、1957 年に研究のためアメリカにわたって以来、そのまま彼地に定着して、1970~1994 年サウスカロライナ大学電子顕微鏡センター所長兼生物科学・海洋科学教授などいくつもの要職をつとめられた。また、日本やそのほかの国々の若手研究者を招聘して指導をされた。化石研の会員の中にもお世話になった人が何人もいる。渡米されて今年で 60 年にもなるが、それよりも 1922 年のお生まれな

ので、今、何と 95 歳である。その方が、はるばるアメリカから来られたので、大変感激した。今回の外国からの著名な参加者の中にも渡部先生の教えを受けた人が何人もいるのである。私も賢島シンポジウム以来、存じ上げているが、10 年ぐらいいはお会いしていなかった。しかし、私を覚えておいでで、「やあ、神谷さん」とおっしゃった。翌 12 日夜のバンケットでは、参加者全員を前に今まで歩いてこられた道のりを力強く話をされた。このバンケットでは、余興として「筑波名物 がまの油売り」の口上や、和太鼓の演奏が披露され、海外からの参加者は大喜びだった。

以上のように、今回の 第 14 回 Biomineralization Symposium は盛況のうちに終了したが、化石研会員が中心となって日本で最初に開いた 40 年前を思い出し、感慨深いものがあった。研究集会代表の長澤寛道氏と東京大学の関係の方々、さらに大会組織委員会のメンバーとしていろいろと尽力された笹川一郎、三島弘幸の両会員に感謝申し上げる。なお、次回はドイツで開催の予定とのことである。

(神谷英利)

最近発行された書籍の紹介

- ・「恐竜探偵 足跡を追う 糞、嘔吐物、巣穴、卵の化石から」
アンソニー・J・マーティン 著 (野中香方子 訳)、2017. 8. 10 発行、¥2200+税、株式会社 文藝春秋
- ・「地質のプロが教える 街の中で見つかる「すごい石」」
西本昌司 著、2017. 7. 1 発行、¥1600+税、日本実業出版社
- ・「荒俣宏妖怪探偵団 ニッポン見聞録 東北編」
荒俣宏・荻野慎諧・峰守ひろかず 著、2017. 9. 12 発行、¥1600+税、株式会社学研プラス
- ・「我々はなぜ我々だけなのか アジアから消えた多様な「人類」たち」
川端裕人 著 (海部陽介 監修)、2017. 12. 20 発行、¥1000+税、株式会社講談社 (ブルーバックス B-2037)
- ・「花のルーツを探るー被子植物の化石ー」
高橋正道 著、2017. 7. 20 発行、¥1500+税、株式会社 裳華房
- ・「化石の植物学 時空を旅する自然史」
西田治文 著、2017. 6. 15 発行、¥4800+税、東京大学出版会
- ・「生痕化石からわかる古生物のリアルな生きざま」
泉 賢太郎 著、2017. 10. 23 発行、¥1500+税、有限会社ベレ出版
- ・「カラー図解 古生物たちのふしぎな世界 繁栄と絶滅の古生代 3 億年史」
土屋 健 著 (田中源吾 協力)、2017. 6. 14 発行、¥1200+税、株式会社講談社 (ブルーバックス B-2018)
- ・「生命史図譜」
土屋 健 著 (群馬県立自然史博物館 監修)、2017. 8. 7 発行、¥2680+税、株式会社技術評論社

(事務局 高桑)

第 150 回化石研究会例会の開催地、決定！

2018（平成30）年11月10日（土）～11日（日）

「鹿児島大学（鹿児島県鹿児島市）」

詳細については決まり次第、会ウェブページ、化石研ニュースでお知らせします。
今からご予約いただき、ぜひご参加ください。

>>> 事務局だより <<<

- 当会元会長（1979～1982）の友田淑郎氏が2017年11月26日に逝去されました（享年95歳）。謹んでお悔やみを申し上げます。
 - 1959年の創設当時から当会会員であった堀口萬吉会員が2017年12月26日に逝去されました（享年89歳）。謹んでお悔やみを申し上げます。
 - 発行が当初予定より遅くなってしまいました。会員の皆様に心からお詫び申し上げます。
 - 会誌やニュースの送付先（ご自宅、勤務先）が変更となった際には、事務局までご一報ください。
 - ニュースを郵送している会員の皆様には、ゆうちょ銀行の払込取扱票を同封いたしました。
「2018年度会費」の納入をお願いします。年会費は前納となっております。なお、ニュースをメールでお送りしている会員の方には、払込取扱票を別途郵送します。年会費は以下のとおりです。
年会費 4000円（学生2000円）
郵便振替 00100-7-633288 化石研究会
- ※ 納入状況は、会誌等の発送封筒の宛名ラベルでご確認ください。
2017年以前の会費が未納となっている方は、併せて納入してください。

3年間、会費未納の会員は除籍となります。

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1 群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

TEL: 0274-60-1200 / FAX: 0274-60-1250 / E-mail: BXJ04105@nifty.ne.jp

ウェブページ <http://kasekiken.jp/>

郵便振替口座 記号番号 00100-7-633288

名称 化石研究会（カセキケンキュウカイ）

年会費 一般4000円（学生2000円）

この化石研ニュースは、上記の化石研究会のウェブページでも見るすることができます。現在、紙でニュースが郵送されている方の中で、紙で送らなくても良い方は是非ご連絡ください。費用と労力の削減に御協力ください。